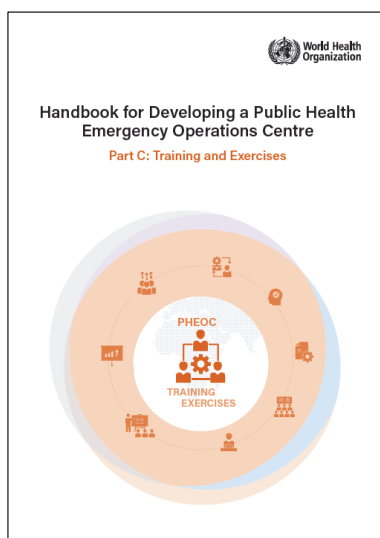


研修・訓練等の企画の手引き（案）

1



- 本資料は、WHOのハンドブックの内容などをもとに作成しています
- このハンドブックは、国や自治体レベルの公衆衛生危機対応センター（PHEOC）の人材育成のための、訓練（トレーニング）と演習（エクササイズ）についての手引書です。

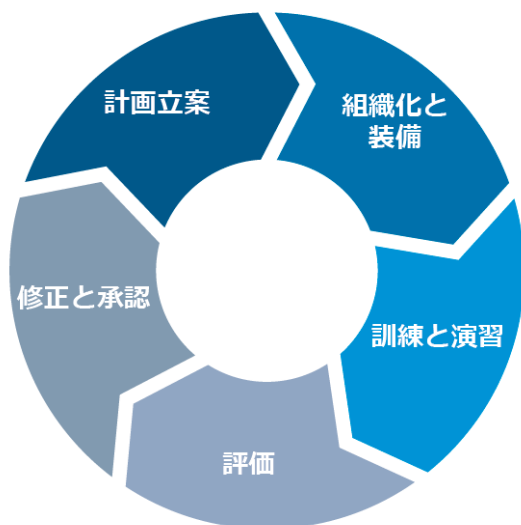
2

訓練・演習

- 訓練（トレーニング）
 - 知識、技能、能力の開発・向上を目的とした活動やコース（一般に「研修」とよばれるものに相当するかもしれません）
- 演習（エクササイズ）
 - 主に下記を目的としたシミュレーション（一般に「訓練」とよばれるものに相当するかもしれません）
 1. 計画の検証
 2. 危機対応で担うべき役割・責務に関する実践的な練習
 3. 各種手順のテスト

3

危機管理における事前準備（preparedness）のサイクル

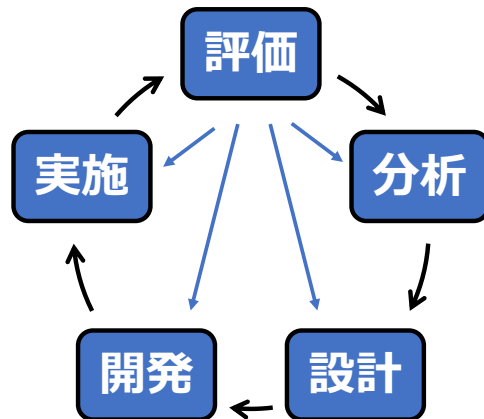


- 「訓練と演習」は危機管理を計画的に進める上での重要な要素として、左図のようなサイクルに組み込まれる

4

研修企画のステップ

- 研修プログラムは、**対象者のレベルと必要とされる知識・能力**等に応じて設計・開発し、定期的に見直すことが重要



研修企画を考える際、左図のように

- 分析（Analysis）
- 設計（Design）
- 開発（Development）
- 実施（Implementation）
- 評価（Evaluation）

のプロセスを繰り返す

ADDIEモデルなどが有用とされています

5

研修企画のステップーつづき

- 研修プログラムの企画・運営では下記の要素も重視
 - ニーズ調査
 - 対象者の知識・技能・能力のレベルと、求められる役割などを調査
 - 目的（ゴール）と学習目標の設定
 - 内容、方法、教材
 - 個人向けの研修、組織向けの研修、など
 - 達成すべき成果
 - モニタリング、評価、レビュー
 - 事前・事後のテストや発表、アンケートなどにより評価

6

訓練（トレーニング）の種類

- 個人向け

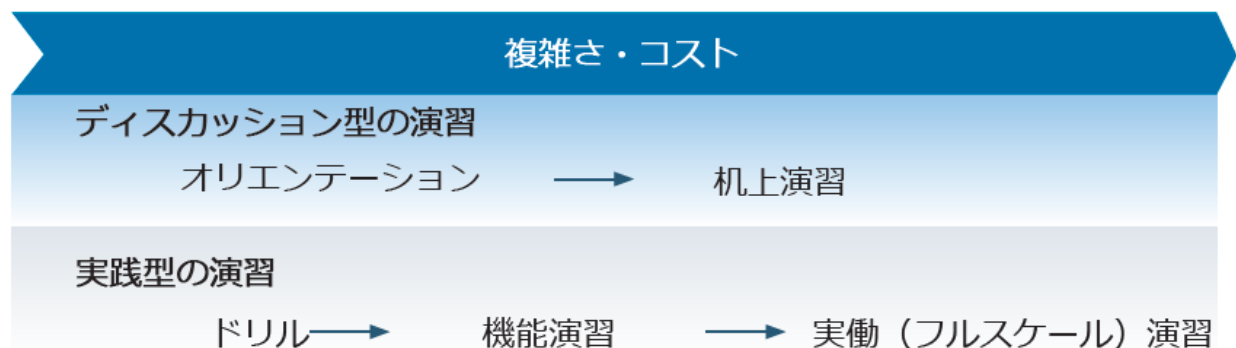
- 講義形式のコース
- e-ラーニング
- 運用手順の企画・開発などへの参画
- インターンシップ、フェローシップ、オリエンテーション
- 演習への参加、ピアツーピアの学習、コーチング、メンタリング、チームビルディング
- 上記の組み合わせ

- 組織向け

- 関係職員全員の学習機会を高める訓練・演習など

7

演習の種類



8

ディスカッション型演習：オリエンテーション

- 非公式なディスカッションを通じた演習
- 計画、役割、標準作業手順（standard operating procedures（SOPs））を理解することをねらいとする
 - 議論を通じて改善の可能性を見出す
- 既存のプロセスやケーススタディにフォーカスした、セミナーやワークショップの形式で行われる
- シンプルかつ低コスト
- 計画の策定や見直し・検証するために最低限実施すべきもの

9

ディスカッション型演習：オリエンテーションつづき

- セミナー
 - 参加者に制度や計画、方針、プロトコル、資源、法令などを説明することを目的とする
- ワークショップ
 - 方針、手順、計画などを成果物を作成するなど、より焦点を明確にした取り組み

10

ディスカッション型演習：机上演習

- シナリオ用いたグループ討論
- 会議室などの落ち着いた環境で行われる（必ずしも机の上でなくてもよい）
- 時間的プレッシャーがなく、計画、手順などの検証・評価に適している
- 自発的な意思決定よりも、問題解決を重視する
- 時間や難易度（複雑さ）を比較的自由に調整できる
- 本部等における調整能力や問題解決能力を評価するために最低限実施すべき演習

11

実践型演習：ドリル

- 特定の技能の習得と、組織的対応の一部分としての協力関係を構築を目的として実施する
- 情報の流れや緊急計画の発動など、特定の機能や手順をテストするために実施する
- 模擬的な緊急対応における操作手順を繰り返し行うことで、自信を持って能力を発揮できるようになることを目指す

12

実践型演習：機能演習

- 計画、手順、方針を実践し、評価するために設計
- 机上演習よりも複雑で、より包括的な計画と長時間の準備が必要
- 利用可能なすべてのツール、技術・手順が実際の災害等と同様にテストされる
- 現場活動のシミュレーションを行うが、実際の資源の配備などは行わない
- 実際の災害等と同様、あるいはそれ以上に厳しい時間的制約の中で実施
- 実際に使用する本部等の施設内で行われるため、使用・評価されるツールや技術は、緊急時に通常使用されるものを用いる
- 異なる機関や部門間の連携を評価することができる
- 準備、書類作成、実施、評価、報告のために十分な時間を確保する必要がある

13

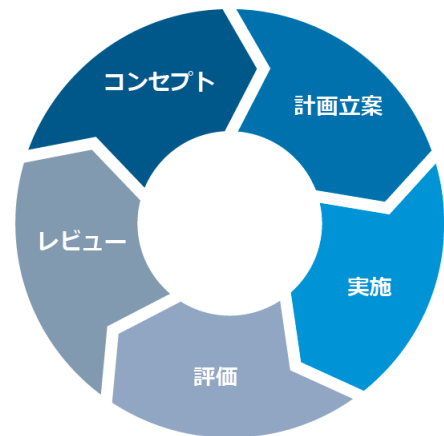
実践型演習：実働（フルスケール）演習

- 緊急事態への準備・対応の手順とシステムの全般的な運用能力を評価するために実施する
- 本部対応と復旧活動における様々な要素をテストするために計画される
- 机上演習や機能演習を確実に実施した上で計画する
 - 大規模な実働演習は、計画と準備に時間や費用を要するため、一般に実施頻度は低い
 - シミュレーション上の調整と対応に必要な資源を実際に配置して行う（インフラ等の混乱や周辺環境の安全に留意）

14

演習の計画・開発のステップ・マネジメントサイクル

1. コンセプトペーパーを作成
2. 管理職の承認を得る
3. 目的、目標、スコープ（範囲）を明確に
4. 演習の種類を選択
5. 演習マネジメントチームを指名
6. 参加者を決定
7. シナリオや事例を作成
8. ロジスティクス要件を決定
9. 演習のマネジメント・コントロール計画を作成
10. 評価計画を作成
11. 参加者向け手引きを作成
12. 施設や物資を確認
13. コントローラー・ファシリテーター・評価者へのブリーフィング
14. マネジメントチームのリハーサル



演習のマネジメントサイクル